

平成29年度 京都府立木津高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(中間評価)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営計画)
1 地域との連携を深めた特色ある学校づくりを推進する。 2 教育活動をととして、規律ある行動とコミュニケーション能力の向上を図り、自分を大切に、他者を思いやる心を育てる。 3 生き生きとした学習活動の可視化に努め、地域から信頼される学校づくりを推し進める。 4 自己理解を深めるとともに、目的意識を高めさせ、自らの進路を主体的に切り開く能力や責任ある行動力を身につけさせる。 5 学習環境の整備や教職員の資質向上に努め、学校の評価をもとに、信頼される学校づくりを推し進める。	1 本校の教育活動を内部にも外部にも、正しく、広く理解してもらうための広報活動を積極的に且つ効果的に行えた。今後も、現状に満足せず、さらに魅力ある広報活動を展開し、中学生に本校が「第一希望」として選ばれるように魅力ある学校づくりを進めていく。 2 キャリア教育を推奨しそれぞれの職業についてのやり甲斐や困難さを体験し、学習意識の向上を図り、適正な職業観を育成し「進路意識」の涵養を目指す取組が求められている。就職希望者への指導の徹底により、一次内定率が向上し、加えて最後まで粘り強い指導を行えた。大学進学希望者には、国公立プログラムや放課後補習の充実が図られたが、今後とも、常に先手を打ち「結果」にこだわる進学指導体制を確立する。 3 地域との連携については、TVF講座やABCマーケットなど、地域に貢献する活動が積極的に進められた。今後は、地域貢献から「地域参画」にシフトを変え、地域の小・中学校や地域自治体と連携し、地域の声を教育活動に反映する取組など、さらに充実した取組を進めていく。 4 身だしなみ指導を強化し、正しい制服の着こなしをすることが進路決定に結びつくことを認識させる指導を行うことが求められている。帰属意識が少しずつ定着してきた今を大切に、部活動や学校行事で「つながり」の意識向上を目指す。	1 木津高校の今後10年を見据え、普通科のエリア・コースを発展的に見直す。難関大学進学に対応したエリアの確立を目指し、進学を望む中学生が本校を希望するよう、積極的に働きかける。また、スタンダードエリアにおいては、連携コースの目標を一層明確化し、あわせて表現コースについても生徒が生き生きと取り組める内容の創造を図る。専門学科2学科については、地域創生、6次産業化、高大連携をキーワードとする取組をさらに発展させ、文部科学省の指定を目指す。 2 生徒の希望進路の実現を第1に、学力の向上を図り、進学・就職共に強い進路指導体制の充実を図るとともに、粘り強い学習指導を通して原留・中退・転学等の減少を目指す。 3 部活動の加入率60%以上を目指して、部活動の参加促進の徹底を図る。また、学校行事に積極的、主体的に取り組むよう工夫・改善に努め、学校生活の一層の充実を図るとともに、生徒・保護者の学校満足度の向上を目指す。 4 引き続き広報活動を積極的に展開し、本校の特色ある教育活動を正しく、広く理解していただくとともに、積極的に授業、学校行事を公開し、地域からの信頼をより一層たかめられるよう努める。 5 自他を大切にすること人権感覚の育成に重点を置くとともに、身だしなみ違反や遅刻の根絶等、基本的生活習慣を確立する。また、全員が安心して安全な高校生活をおくれるよう規範意識の確立と授業規律を徹底し、教育環境を整備する。 6 あいさつを励行し、ボランティア活動の一層の推進や地域連携、地域行事への積極的な参加をとおし、地域に愛される高校としての存在感を確立する。

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
教務部	修学保障	原級留置・中途退学者数を減少させる。	欠席過多生徒・成績不振の生徒に対する指導について学年部のみでなく、各教科担当との連携を密にし、昨年度人数より減少を目指す。 各学期末において、成績会議を開催し、各生徒の成績状況の情報共有を図るとともに、成績不振生徒に対する丁寧な学習指導に力を入れる。 課題を抱える生徒への面談やアプローチの仕方について、より効果的な実施の仕方、時期を検討する。	3	3		・「欠席過多報告書」によって、保護者に向けた家庭連絡が即時性のあるものとなっている。1学期の不振者数は昨年より数%上昇した。12月の面談に向けて、2学期中間以降、学年部で適宜面談等を行ってもらいつつ、卒業の厳しい生徒については教務部長による面談を特別に行う予定である。6月の公開授業では、ALの取組も公開することができた。教務部が主導する形で数年、実力テスト対策を進めてきたが、教科で積極的かつ主体的に取組む体制が作られてきた。授業規律確保については、今年度当初より授業中巡回を積極的に行うようにしている。
	学習指導	授業規律を確保するとともに、授業改善を推進して学力向上を図る。	授業改善につながる取組（公開・研究授業週間、授業アンケート等）を効果的に実施し、授業改善を通じて学力向上につなげる。 学力向上につながる取組（府立高校実力テスト対策など）を他分掌と連携して効果的に実施する。	3 3			

分野	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を目指す。	社会の一員としての自覚を育てるために、定められた時間に登校できるよう毎朝校門にて、あいさつ運動とともに遅刻防止指導を行う。	3	3	・一学期の遅刻生徒の数は一日平均が7.16人であり、二学期に入ってから一日平均が6人を下回っている。今年度から、遅刻が規定の回数を超えた生徒は生徒指導部で面談指導を行うこととし、その成果もあって昨年度と比較してかなり減少した。しかし、一部の生徒は遅刻が減少しない状況であるので、学年部と連携して指導するなどし、基本的な生活習慣を身につけさせたい。 ・今年度より、身だしなみ違反を繰り返す生徒は特別指導の対象とする。身だしなみ違反に対してよりきめ細かに指導していることもあり、身だしなみはかなり改善が見られる。しかし、見つからないように化粧をしようとする生徒も少なくないので、身だしなみ指導強化月間等を設けるなどし、教員全員で身だしなみ指導ができる機会を増やしていきたい。 ・一学期の携帯電話指導は46件となっており、昨年度に引き続き100件を超えるペースで指導件数が増えている。各授業で授業開始時に携帯電話に関する注意をもらうよう、職員朝礼などでアナウンスを行う。 ・非行防止教室や交通安全教室を警察と連携して開催する予定であり、さらに、本校主催で行う薬物乱用根絶啓発運動も警察と協力して行う予定である。 ・いじめに関する調査、いじめ関係長欠調査を実施した。その結果について、いじめ対策委員会を開催し、いじめ状況の共通理解を図った。 ・リーダー会議、文化委員会、体育委員会を適宜開催し、学校祭を計画的・主体的に取り組ませるように指導した。学校祭当日はもちろん、準備や片付け、学校祭を盛り上げるなど様々なところで生徒が活躍することができた。 ・部活動生徒が木津駅前クリーン運動に多く参加するなど、地域との連携を深めた。 ・仮入部期間を設定し新入生全員が部活動を体験できるように実施した。部活動の加入率については、57.5%に留まり、目標の60%には届かなかったが、昨年度より7%程度加入率を上げることができた。継続して活発な部活動とその活動内容が全生徒に伝わり広がるよう工夫が必要である。
			登下校時を含め、学校生活全体を通じて、身だしなみが整った状態で過ごすことができるよう統一した指導を行う。	3		
	特別活動	規律ある集団生活の中で、生き生きとした教育活動を推進する。	携帯電話やスマートフォンの使用ルールを遵守するよう、統一した指導を行う。	2		
			保護者や地域、関係機関と連携し、安心・安全な学校生活の構築を図る。	3	3	
			外部関係機関と連携を密にし、生徒の安全に留意した指導を行う。	3		
			いじめの早期発見・早期解決といじめを許さない心の育成指導を行う。	3		
			生徒会、クラス委員、部活動の校外での奉仕活動等を通して、地域への連携を深めるとともに他者を思いやる心を育てる。	3	3	
			部活動に参加しやすい環境をつくり、一人ひとりが達成感・充実感を得られるようにする。	3		

進路指導部	進路指導	進路希望を実現させる就職指導、進学指導体制を充実させる。	就職希望者に対する指導体制の充実及び指導の強化を図り、希望者全員の内定を得る。 各学年の状況を鑑みながら、段階的に「国公立プログラム」の体系化を図り、進学指導体制の確立を目指す。 進路学習や情報提供の見直しを図り、生徒の進路意識のさらなる向上を目指す。	3 3 3	3	・学年部との連携を深め、就職指導の強化を図ることができた。 ・特に2年生は、学年部、各教科と連携しプログラムの運営を行うことができた。 ・2年生の7月にオープンキャンパス7-を企画するなど新たな試みを行うことができた。
	中高連携	本校の教育活動に興味・関心を持つ生徒に多く受験し入学してもらうために、中学校との連携を強化する。	中学校訪問や中学校教員対象の説明会の実施、あるいは中学生対象の説明会や専門学科セミナーの実施により中学校との信頼関係を構築し、相楽エリアにおいて選ばれる学校を目指す。	3	3	・広報プロジェクト担当者と連携した中学校訪問や中学生対象の説明会や中学生訪問の受入などにより中学校との信頼関係の構築につなげた。 ・ホームページの定期的な更新、AR動画による動画配信等によりリアルタイムな情報発信を行った。 ・マナトレを通じて基礎学力の定着を図ることができている。
	広報活動	本校の特色ある教育活動を、中学校、地域社会、企業、大学へ広報する。	各分掌、教科、学科、部活動と連携して、ホームページを積極的に活用したリアルタイムな情報発信を行う。	3		
	普通科教育	普通科生徒の基礎学力育成と学習習慣を確立させる。	1年普通科の総合的な学習の時間において、毎時間理解程度を確認する。	3		
図書部	図書館活動	図書館での活動を通して、生徒の学力・人間力の向上を目指し、社会で通用する能力を身につけさせる。	生徒及び教職員の図書館資料や視聴覚教材の利用を促進する。 生徒の図書・視聴覚委員会の活動に積極的、主体的に取り組ませる。	3 3	3	・映画鑑賞会を6月に実施した。 ・新着図書の紹介・図書館たよりの発行・HPの更新が出来ている。
保健部	健康・安全	生徒の健康・安全を守るとともに将来に繋がる取組を徹底する。	各種検診の全員受診を目指し、保健活動を充実させる。	3	3	・各種検診はほぼ100%受診させることができていく。今後も事前・事後指導を丁寧に実施していく。また、「ほけんだより」や保健委員による「保健委員会だより」、掲示板広報も充実した内容で実施できている。 ・保健室を訪れる生徒の状況は担任等への報告により情報共有できている。また、スクールカウンセラーによる生徒、保護者、担任へのカウンセリングが適宜行われており、情報交換・情報共有はできている。今後も生徒の進級・卒業に向けて漏れのないように連携を進めていきたい。 ・様々な問題を抱える生徒の支援方法の検討を目的として学校適応推進会議を定期的に開催し、問題への早期対応につとめている。 ・昨年度行った第1学年部と連携しての学習支援活動を今年度は全学年対象に拡大して行っている。 ・第1回美化コンテストの実施など生徒の意識向上を進めてきているが、ゴミの分別についてはまだ不十分なところが見られる。今後も意識高揚を図りたい。
		要支援生徒に対する支援体制の充実を図り、生徒の着実な成長を目指す。	日常の生徒観察や学校適応推進会議、スクールカウンセラーを活用し、生徒理解に努める。	3	3	
		美化清掃活動を推進し、学習環境の整備と生徒の美化意識向上を図る。	清掃方法の更なる徹底を図り、美化コンテストなどの委員会活動を活発にする。	3	3	
農場部	農場経営	グローバルGAP（農業生産工程管理）の取組を充実させる。	農業管理記録簿を常に見覧できるように管理する。	4	4	・10月10日にグローバルGAPの認証検査をうけ、300項目の大部分で基準を超えることができた。今後、修正を行い認証を目指す。 また、各種連携とイベント参加に取り組みながら、一定の精選をすることができたが、より教育効果を高められるようにしたい。
			農器具を整理整頓し適切に管理するとともに、安全に使用できるようにする。	3		
		学科連携・地域連携・学校間連携をより充実させる。	TVF講座・情報企画科連携の実施回数・内容を充実させる。 大学をはじめとした他校種の学校連携を充実する。	3 3	3	

			「お茶の京都」に伴い、行事や取組の集中と精選を行う。				
情報企画部	学科経営	「人間性豊かな職業人の育成」を理念とした諸活動を推進する。	学科・地域・各学校と協働する事業を企画し、生徒の研究活動に活用する。 システム園芸科と共同で研究計画を策定し、SPH指定校を目指す。	3 3	3		・課題研究の取り組みにおいて、さまざまな団体や企業と連携した研究活動を行った。今後カリキュラムとしての継続性や連続性を高めることが課題である。 ・プロジェクトでSPHの計画について協議している。 ・就職、専門学校への進学について一定の成果が得られた。四年制大学の推薦入試に向けさらなる指導にあたる。 ・教育推進部の協力を得ながら、教員向けの専門学科説明会や中学生向けの各種説明会でより魅力が伝わる広報活動の工夫を行った。前年度の反動と見られるが、説明会の参加者をもっと増加させたい。
		商業科の専門性を生かした進路実現を支援する。	担任と連携してより効果的な進路情報の提供を行い、計画的な進路実現を図る。	3	3		
		専門学科について広く認知されるよう、広報活動の充実を図る。	校内外での説明会等で、教員と生徒が協力してその魅力が伝わる広報活動を行う。	3	3		
第一学年部	学校生活	授業規律を守り、授業を大切にすることで、基礎学力の定着を図る。	計画的に面談を実施し、生徒理解および保護者との連携を深める。	3	3		・各担任が積極的に個人面談を実施した。また、必要に応じて家庭への連絡、四者面談を実施、保護者との連携を図った。 ・ホームルームや学年集会での指導を通して、授業規律については、一定の成果が得られている。しかし、携帯電話指導など2学期になってから授業中の指導が多くなっている。今後、保護者との連携もとりながら改善にむけた指導を必要とする。 ・部活動加入率は現在約60%である。2学期以降、部活動の継続に悩む生徒が出てくることも予想される。顧問と連携を図りながら部活動の継続および新たな部員の確保に向けて声かけが必要である。 ・文化祭および体育祭などの学校行事において、各クラスで協力して展示作成や競技に取り組むことができ、来年度へつなげる良い活動ができた。
		身だしなみの徹底、挨拶や時間を守ることを推奨し、社会性豊かな集団を育成する。	授業を大切にするなど、学習環境を整え、基礎学力の定着を図る。	2	2		
		部活動および学校行事に積極的に参加する姿勢を養う。	部活動参加を積極的に推進する。 校外学習・文化祭・体育祭等の行事において、主体的計画のもと、協力して取り組ませる。	3 3	3		
第二学年部	学校生活	授業規律を守り、基礎学力を定着させ、進路に対する意識を高める。	授業を大切にする教育環境と週末課題や日常的に補習講座を開講することで、学習習慣と基礎学力の定着を図る。 年3回の分野別学習会、進路希望調査や保護者を含めた面談などを定期的に行い、自ら進路目標を切り開く力を育てる。	3 3	3		・STEP-UP プログラム(補習講座)を41名の希望者でスタートさせた。自習部屋を常に用意し、毎週小テストを行うなど次年度の進路実現に向けて活動している。 ・1学期にキャンパスツアー、2学期には分野別学習会を行い、現時点から進路について高い意識付けを行っている。 ・授業規律はおおむね良好である。一部のクラスにおいて今後、指導が必要になる可能性はある。 ・身だしなみ指導においては一定の成果を出せている。しかし、一部の生徒において累積の指導が増えてきている。
		思いやりの心を育み、健康で社会性豊かな集団の育成を図る。	身だしなみを整え、学校の規則を守ることを徹底する。 充実した研修旅行の実現に向け、1学期より事前学習を含めて計画的に指導を行う。 良い言葉を日頃から使い、落ち着いた気持ちで学校生活を送れるようにサポートする。	2 3 3	3		
第三学年部	学校生活	進路実現と、社会性豊かな資質を身に付けさせる。	生徒の希望進路の実現を第1に、保護者、学校が足並みを揃えて指導する。 進路希望に応じた取組や行事に参加させる。 地域に愛される高校の一員として、身だしなみを整え、相応しい言葉遣い、挨拶ができるように指導する。 学校行事や日常の清掃活動を通し自他を大切にすること人権感覚を育成す	3 3 3	3		・進路指導部と連携を図り、進路指導を円滑に進めた。特に就職指導については、保護者と足並みをそろえた成果があった。 ・進路内定率69%（10月16日現在）である。 ・進路実現を意識した身だしなみ、言動ができるようになった。しかし、一部の生徒では場面に相応し

			る。	3			い言葉遣いができないままであり、課題が残った。 ・学校行事を通し自他を大切にする人権の育成を図った。人権学習の工夫により就職差別への意識を高め、実践に生かせることができた。
事務部	施設設備管理	安全安心な学校作り	施設担当者・技術担当者を中心に施設・設備の点検を実施する。	3	3		・老朽施設の改修計画をたて、冬期休業中にゴミステーションと正門の改修を行うこととしている。 ・運営費予算が大変厳しい中で、教科・分掌の協力を得て予算執行について精査しながらも広報活動やグローバルGAPの取得に向けて予算化し取り組んでいる。 ・事務担当者の分担を変更し、新しい事務体制の中で事務処理が軌道に乗りつつある。更に相互チェック体制に繋げる必要がある。 ・ゴミの分別・削減を更にすすめる。
		設備・備品等の改善整備	施設設備の老朽化について長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。	3	3		
	会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	職員相互のチェック・確認体制の定着化を図る。 見合わせ等により、経費の節減に努める。	3	3		
		省エネ・ゴミ削減	デマンド監視装置を活用し、消費電力の節減に努める。	3	3		
		廃棄物量の削減	保健部と連携し、ゴミの分別・節減に努める。	3	3		

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
国語科	教科指導	学習規律、学習習慣を確立させる。	「国語科３年間の取り組み」を基本に、取り組むべき課題を明示し、提出物の徹底を図る。 ノート作り、プリント内容を工夫し、基礎的な知識の定着を目指す。	2 3	3	・日々の学習活動における提出物の点検、長期休業中の課題の点検をしっかりと行うことで、学習規律や学習習慣の確立を促していくという点においては一定の成果が見られる。しかし「期限を守って提出する」ということに関して一部の生徒の意識の甘さが気になるところである。「提出しなくてもなんとかなる」というような考えを持たせないように、目の前の課題に真剣に取り組み、きちんと提出しなければならないと意識できるよう細やかな指導を、他教科とも連携しつつ、引き続き行っていく。
		基礎的な知識の定着を図り、国語力の充実を目指す。	府実力テストや模試に向けた対策指導を行う。 漢字検定合格等、「漢字力」育成に向けた指導を充実させる。 小論文補習や進学補習などの取組を強化する。	3 3	3	
		教材の精選及び教材理解の深化、指導内容や方法の共有化を図る。	小教科担当者間で教材研究を行い、板書計画やプリント作成において担当者間の交流を図る。 ３年「総合的な学習の時間」の系統的指導法を確立するとともに、「連携」関連科目の更なる発展深化を図る。	3 3	3	
地歴公民科	教科指導	効果的な学習方法を習得させ、基本的な知識を確実に定着させる。	教科書やその他の教材・ノート類を揃えて授業に臨むよう指導を徹底する。	3	3	・教科書・副教材を授業前に準備できていない生徒は、まだ見られるがかなり少ない。定期的に教科書を持参しているかをチェックするなどの対策を講じている。 ・考査前の意識づけ、勉強会参加への促しなどをして、生徒の向学心を高めるとともに成績不振者へのフォローを行っている。 ・授業に関わるDVDや映像を視聴させている。 ・夏期の課題として、税の作文や時事問題に関わるレポートを課している。 ・衆議院総選挙に伴い、投票日までに３年生の全クラスで各授業を通じて主権者教育を展開している。
		学習習慣の確立を促す。	授業等で学習習慣の確立を繰り返し呼びかけ、適切な課題を与える。 地歴公民科目の効果的な学習方法を指導し、学習内容理解の定着を行う。 視聴覚教材（新聞や写真）やＩＣＴ教材を効果的に利用する。	3 3	3	
		歴史的、社会的な事象に興味・関心を持たせ、自分の意見を持たせる。	生徒に社会的な事象に対する自分の考えを持たせるために、レポート課題や発表活動を取り入れた指導を実施する。	3	3	

数 学 科		基礎学力の向上を図る。	授業開始時には、机上に教科書・ノート・問題集を置き、不要物を片付けさせ、身だしなみの点検指導、机上の学習準備指導を実施する。重要事項をノートにまとめさせ、プリントを活用し、問題演習に前向きに取り組むよう指導を行う。	3 3	3		・小テストや宿題や週末課題を課すことにより家庭学習時間を増やそうとしているが、家庭学習習慣の確立までには至っていない。 ・1学期の成績から判断し、2学期から1・2年のスタンダードクラスに補習を呼びかけているが、参加状況はあまりよくない。
		学習習慣の確立と、進学に向けた指導を充実させる。	家庭学習課題を与え、小テストを実施し、家庭学習習慣の確立を図る。進路実現に向けて、補習・学習合宿・セミナーを充実させる。	2 3	3		
理 科	教科指導	授業を大切にする教育環境をつくり、基礎・基本を定着させる。	授業開始時に、机上を整理させ、身だしなみ点検を行うことで授業の準備をさせる。各科目とも平常点を約30%設定することで、ノートをとったり、提出物を出すように指導する。定期考査ごとに各クラスの状態を教科内で協議し、課題解決に向けて学習会や個別指導を行う。	2 3 3	3		・机上の物や身だしなみを整えさせ、ノートや授業中の課題などを提出物と課し、学習に向かわせて授業規律を確保することは一定の成果は見られる。しかし、一部のクラスでは、授業規律面での課題が残っている。 ・1学期は実験に取り組めていたが、2学期の前半は十分にに取り組めていなかった。 ・化学基礎を中心にアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開できており、一定の成果もみられる。しかし科学的・探求的な話し合いをさせる段階には至っていない。
		理科教育の充実を図る。	教科会で予備実験を行って、新しい実験を試したり、教員間で共有する。また、予備実験の時間を短縮することでより多くの実験を実施できるようにする。	2	2		
			アクティブ・ラーニングの要素を取り入れて、話し合いにより科学的に探求する姿勢を養う。	3	3		
	保健体育科	豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。 健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。 規律ある集団行動の実践と、協調性を持った生徒を育成する。	運動特性を理解させ、合理的根拠に基づく指導を行う。 新体力テストのフィードバックを行い、主体性を持たせる指導を行う。保健の授業において、生徒一人ひとりがレポート作成と発表を行うよう指導を行う。 年間を通して講座全体集合を行い授業を始め、規律ある集団づくりに取り組む。	3 3 3	3 3 3		・前年度に引き続き評価規準を明確化した。理論を系統立てて授業に取り組み、スポーツライフの形成に役立てる授業展開を行った。 ・全体集合をすることで、規律ある授業の開始を保つことができている。 ・危機管理や安全点検を継続的に実施する必要がある。
芸 術 科	教科指導	基本的な学習習慣の確立	授業規律を明確にして指導し、授業態度に問題ある生徒に対して個別に注意を促す。特に理由のない遅刻には強く指導する。課題や作品の提出や発表の期限及び各種届を厳守させる。	3 3	3		・年度当初のガイダンスにおいて、授業の進め方など生徒に明確にして、徹底させている。そして、できていない生徒に対しては、個別に指導している。 ・遅刻や欠席に対しても同様に指導している。 ・生徒が興味関心が強く持てるような教材を精選し実習に取り組ませるようにしている。
		学習活動の充実	意欲的に実習に取り組み、生涯芸術が愛好できるよう、学習活動を充実させる。	3	3		
英 語 科	教科指導	様々な学習活動を通して生徒の英語学習へのモチベーションを高め、積極的な発話につなげる。	検定試験の受験、スピーチコンテストへの参加等、様々な取り組みを通して、生徒が生き生きと英語学習へ向かうモチベーションを高める。また普段の授業での教授法や活動を工夫し、積極的に発話の機会を設ける。	3	3		・年間行事として全商英検や実用英検の受験、スピーチコンテストへの参加を奨励している。全商英検受験者は前年度より増加した（19人→24人）。一方で合格者数は減少した（5人→2級2人、3級1人）。実用英検は、受験者数が前年度よりも減少した。合格者数は第2回の結果が出ていないため増減はまだ分からない状態である。スピーチコンテストは意欲的な生徒6名が出場予定である。今後は合格者数増加を目指し、生徒に対して語彙力強化を促し、基礎学力を高めることが最重要課題と考える。 ・英語学習に前向きな姿勢を持つ生徒は散見される。その積極的な姿勢を伸ばし、より多くの発話機会や英語を使用する環境を作ることでより一層の学力向上につながると考える。年度末に向けて引き続
		多様な進路希望に対応できる語彙力と文法知識の定着と向上を図る。	定期的な課題や、授業内での単語テスト等の小テストを行うことで語彙力と文法知識の定着を図る。また、計画的で効果的な補習を実施し、基礎学力の向上を図るとともに、発展的な学力の素地を養う。	3	3		

						き授業内で発話機会を作り続けることが今後の課題と考える。 ・それぞれの学年・コースの実情を踏まえながら、各授業内で単語テストや内容確認テストを定期的に行うことで、語彙力や文法知識を定着させる機会を作っている。試行錯誤しながらの段階ではなるが、来年度以降につなげるためにも、年度末に振り返り、まとめを行いたい。
家庭科	教科指導	学習規律を確保し、学習習慣を定着させる。	始業時に学習に向かう姿勢を整えさせる。	2	2	・始業時に声掛けをするが、指示が行き届かない場合もあり、プリントを配るなど落ち着かせるようしている。 ・プリントファイルは、毎時間提出させ、しっかりとチェックをすることで、提出状況を把握することができた。
		自分の生活を見つめ、改善すべき点を把握させる。	定期的に教科ファイルを提出させ点検を行う。	3	3	
		将来に生かせる知識、技術を習得させる。	各領域において、問題意識を持たせながら授業を展開し、知識・技能を生かせる場面を提示する。	3	3	
情報科	教科指導	スタンダードエリア連携コースの学習内容の充実を通して普通科の活性化を図る。	PowerPointの効果的な活用技能を指導する。 プレゼンテーション技法（身だしなみ指導を含む）の指導を行い、ブレ発表を実施する。 他教科の連携コース担当教員との連携を図る。	3 3	3	・プレゼンテーション技法では、1年次から身につけた技能を連携コースの学習において活用できており、発表は回を重ねるごとに上達している。 ・授業規律の確保については一定の成果が見られた。コンピュータ教室の更新も行われ、さらなる規律の確保に努める。
		授業規律の確保を行い、学力向上を図る。	実習時、上履きの整理整頓の点検を行う。 「授業を大切にしよう」の声かけを行うとともに、PC機器の適切な取扱について指導する。 提出物の期限内提出の指導を行う。	3 3	3	
				3		
				3		
農業科	教科指導	地域・大学等と連携した取組を行い応用力の向上を図る。	木津北地区の整備と保全活動に取り組む。 大学や専門機関と連携をし学習、実験を実施する。	3 3	3	・大学などとの連携事業を進めることができた。 ・資格取得では、1年生で受験希望者・補修参加者が増えた。
		資格取得の取組を活かし学力向上を図る。	農業技術検定、危険物取扱者資格、情報処理検定を複数取得させる。	3	3	
商業科	教科指導	規範意識の育成のため、授業規律を重んじ、主体的な学習姿勢を身につけさせる。	授業前後の挨拶時に、主体的に身だしなみを整え、前を向いて姿勢を正すことを習慣づける。 各科目における生徒の習熟度を教科内で共有し、全体でフォローを行う。	3 3	3	・生徒の規律意識は一定の定着が見られるが、上級生に時折ゆるんだ様子が見られ、さらなる徹底を図る。 ・教科内での習熟度の把握と対策について情報共有がなされている。1年生の情報処理検定の合格率が97%と非常に高かったが、簿記の習熟度を向上させることが課題となっている。 ・検定補習は、ほとんどの生徒が前向きな姿勢で学習に取り組んでいた。
		商業科の専門性を生かした進路実現のため、特に検定科目について重点的に指導を行う。	検定取得に対して、進路実現との関連をふまえた動機付けを行い、習熟に応じた適切な指導を行う。	3	3	